

荒武 泰子さん インタビュー

Q 組織内でリーダーシップを発揮し、マネジメント力を養うにあたっては、どのような仕事上の経験が役立ったとお考えでしょうか。

A 過去、警察組織は男性社会であったことは紛れもない事実です。ただ、昭和 60 年の男女雇用機会均等法の成立後、女性警察官を取り巻く勤務環境は劇的に変化しました。

また、ストーカーやドメスティックバイオレンス、あるいは児童虐待といった新たな事象への対応を警察に求める社会的ニーズの高まりにも伴い、女性警察官の活躍の場は確実に広がってきました。私個人としては、事件捜査部門や人事企画部門等様々なポストを経て幹部となる経験を積むことができたのではないかと思います。

警察は階級社会であり、厳しくもやりがいのある仕事に取り組みつつ一段一段階級の階段を登ることにより、組織のリーダーの在り方、マネジメントの要諦を学んだと感じています。

Q 女性警察官の活躍の場が確実に広がっているということですが、女性の幹部が増えていくことに対する期待などがあれば教えてください。

A 治安責任を担う警察官としてなすべき職務の前には、男も女も関係ありません。ただ、府民の皆さんが、女性の署長や幹部の存在によって警察に親しみやすさを感じていただけるなら有難いことです。

女性活躍は社会の要請、必然です。後輩たちには家庭との両立等困難に直面しても諦めずにチャレンジし続けてほしいと思っています。